



## 本部より

### 平成19年度 第1回総会開催について

社団法人日本動物学会 会長 佐藤矩行

平成18年度事業報告、及び決算報告に関し、会員皆様に報告をさせて頂き、承認頂きたく、下記の日程で総会を開催いたします。会員皆様におかれましては、掲載されています原案をよくお読みください。なお、総会へご欠席の方々は、同封されている葉書で委任状を必ずご投函ください。この葉書は、動物学会が料金を負担するものです。総会へのご出席をお願い申し上げます。

日時：平成19年3月3日(土) 午後1時より

場所：動物学会本部事務局

東京都文京区本郷2-27-2 東真ビル3階

議題：第一号議案 平成18年度事業報告について

第二号議案 平成18年度決算報告について

以上

### 平成18年度事業報告書(案)

#### 1. 学術集会の開催

9月21日～24日 日本動物学会大会第77回大会

島根大学総合資源科学部(松江市) 参加者数971名

演題数627 一般シンポジウム10 関連集会9

高校生ポスター13

「親と子の動物学探検」13展示 参加者数274名(文部科学省公開促進費B補助事業)

#### 2. 全国7支部による支部大会およびシンポジウム開催について

3月19日 関東支部第58回大会

お茶の水女子大学 参加者数181名 発表演題数54題

一般公開企画 動物学ひろば4件「実験動物動物園」16件 参加者300人

4月22日 九州支部熊本例会

熊本県立大学新講義棟 演題数3

5月13日 九州支部沖縄例会

沖縄国際大学5号館107講義室

シンポジウム レッドデ-タブックを考える：特に琉球の生物多様性の視点から 講演数6題

5月20日 近畿支部大会

奈良女子大学記念講堂 演題数13題

5月20日 中四国支部大会

愛媛大学城北キャンパス 演題数90題 公開シンポジウム3題 高校生ポスター29題 参加者数168名

5月20日 九州支部大会

鹿児島大学理学部23題 参加者数104名

特別講演「フェニックスの大量枯損の発生とその犯人」曾根晃一(鹿児島大学)

5月26日 北海道支部513回講演会

北海道大学理学部5号館 永井裕子(動物学会事務局局長)「学会出版の進むべき方向を考える-科研費、機関リポジトリ、電子ジャーナル 参加者数35名それぞれの選択」

6月23日 北海道支部講演会

北海道大学理学部5号館 永田鎮也「Gone CodeとWave Code-情報生成の場における自己のポジショニングについて」

6月30日 九州支部 福岡例会

九州大学箱崎キャンパス 演題数2

7月8日 九州支部 鹿児島例会

鹿児島大学理学部3号館

講演「森林の分断化がホオノキの繁殖過程に与える影響」

7月22日 九州支部例会

九州大学伊都キャンパス見学会

7月22日 関東支部公開講演会

「海産動物研究の最前線-ゲノムから見えてきたもの」東京大学理学部2号館大講堂 講演数5題 参加者数126名

7月27日 北海道支部 第515支部講演会

北海道大学理学部 演題数2

7月29日、30日 中部支部大会

愛知県立大学学術文化センター 演題数11題 高校生ポスター4題 参加者数100名

シンポジウム「先端バイオの光と陰：万能細胞・モデル動物の生命倫理」

中辻憲夫「ヒトES細胞株の樹立と利用：なぜ万能細胞と呼ばれるか」

米本昌平「ヒト胚研究の規制 - 受精卵の道徳的地位問題を世界はどう考えてきたか」

7月30日 北海道支部大会

北海道大学理学部 5号館 演題数 7

市民公開講演会 松島俊也(北海道大学)「情報を喰う脳」/ 信濃卓郎(北大創成科学共同機構)「植物が値圏に求めるもの」

8月5日 東北支部大会

山形県立博物館

8月6日 公開シンポジウム

親子で楽しむ動物学 8 動物のオスとメスはなぜいるの 演題数 2 参加者数98名

8月22日 北海道支部第516回講演会

演題数 1

9月1日 無脊椎動物神経生物学シンポジウム

徳島文理大学香川薬学部 1階会議室 演題数 3

9月29日 北海道支部第517回講演会

近藤宣昭(三菱生命化学生命科学研究所)「冬眠を制御する蛋白質複合体の発見 - 冬眠の謎に迫る - 」

11月11日 九州支部熊本例会

熊本大学理学部 3号館 321講義室 演題数 3

11月18日 山口大学理学部サイエンスワールド(中四国支部後援)

11月25日 九州支部佐賀例会

佐賀大学夢の実会館 演題数 3

11月25日 近畿支部公開講演会

大阪市立大学理学部附属植物園 演題数 3

11月25日 九州支部宮崎例会

宮崎大学教育文化学部講義棟 演題数 2

12月2日 九州支部福岡例会

九州大学箱崎キャンパス理学部 演題数 3

12月9日 九州支部鹿児島例会

鹿児島大学理学部 演題数 4 ポスター発表 3

特別講演 簗部悦子(鹿児島大学)「心筋 L 型  $\text{Ca}^{2+}$  チャンネルの活性調節機構」

12月9日 九州支部長崎例会

長崎大学文教キャンパス総合研究棟 109講義室 演題数 5

12月16日 中四国支部愛媛例会

愛媛大学理学部204講義室 演題数 4

### 3. 動物学の普及活動

### 4. 学会誌・図書の刊行

Zoological Science の発行 23巻 1号~12号

生物科学ニュースの発行 No.409 - 420

### 5. 動物学研究業績の表彰と研究奨励

平成18年度日本動物学会賞

深田吉孝会員 東京大学大学院理学系研究科生物化学専攻

「動物の光受容と生物時計の分子メカニズムに関する研究」

根本心一会員 お茶の水女子大学理学部生物学教室

「ヒトデ卵における中心体の継承機構」

平成18年度日本動物学会奨励賞

笹倉靖徳会員 筑波大学下田臨海実験所

「海産無脊椎動物カタユレイボヤにおける分子遺伝学の展開」

佐藤賢一会員 神戸大学遺伝子実験センター

「脊椎動物卵における受精成立の分子メカニズム」

平成18年度江上基金

柴 小菊会員 東京大学大学院理学系研究科附属臨

海実験所

吉永雅史会員 広島大学大学院理学研究科生物学

専攻

平成18年度日本動物学会 OM 賞

重谷安代会員 東京大学海洋研究所 先端システム研

究センター海洋システム解析分野・研究機関研究員

「脊椎動物の頭部三叉神経堤領域とは何か? - ニ

ワトリとカワヤツメにおける神経堤細胞とブラ

コ - ド派生物そしてナメクジウオにおける相同

器官の形成に関わる遺伝子群の解析」

松下敦子会員 パージニア大学心理学部・Research

Scientist

「弱電気魚の時間差検出における神経回路の免疫

組織化学的研究」

### 論文賞

*Animal Diversity and Evolution*

Title: Hybrid Male Sterility between the Fresh- and Brackish-water Types of Ninespine Stickleback *Pungitius pungitius* (Pisces, Gasterosteidae)

Authors: Hiroshi Takahashi, Terumi Nagai and Akira Goto

Zoological Science 22 (1): 35-40

推薦理由: 本研究は、日本産イバラトミヨの汽水型と淡水型の交雑実験により、雑種♂のみが必ず不妊となること、その性依存の雑種崩壊が精子形成の異常により生じていることを明らかにした。トゲウオ

類では、互いに急速に分化した生態型が平行種分化する実例の研究モデルとして世界的に知られている。そのトゲウオ類で初めて、性依存の雑種崩壊を発見し、そのメカニズムを確認した点で新規性が高く、かつ急速に平行進化が達成されるプロセスの研究に新たな視点をもたらした点で大きな意義のある研究成果の報告である。

#### Cell Biology

Title: Impaired Flagellar Regeneration Due to Uncoordinated Expression of Two Divergent Actin Genes in *Chlamydomonas*

Author: Takako Kato-Minoura

Zoological Science 22 (5) : 571-577

推薦理由: クラミドモナスには二つのアクチン関連タンパク質が存在しているが、そのうち NAP の機能については明らかでなかった。本論文は、5'UTR-NAP+CrA のキメラ遺伝子を *ida5* 突然変異体に導入した細胞 TF5 では鞭毛再生時に異常が生じることと、鞭毛再生初期に CrA の発現量が増加していることなどを明らかにし、NAP が鞭毛再生に重要であることを示した価値の高い論文である。

#### Developmental Biology

Title: Expression Patterns of a twist-Related Gene in Embryos of the Spider *Achaearanea tepidariorum* Reveal Divergent Aspects of Mesoderm Development in the Fly and Spider

Authors: Kazunori Yamazaki, Yasuko Akiyama-Oda and Hiroki Oda

Zoological Science Vol.22 (2) : 177-185

推薦理由: 本論文は、クモの一種、*Achaearanea tepidariorum* における発生（中胚葉）関連遺伝子、Twist, ならびに snail の相同遺伝子を単離、発生過程におけるその発現を観察し、ショウジョウバエにおいて知られている発現パターンや機能と比較、考察したもの。相同遺伝子でありながら、これらのクモの遺伝子が発現する細胞系譜やパターン、その時間的変遷には、ショウジョウバエのものとは大きな違いがあり、進化における遺伝子の大胆な使い回し、その背景としての遺伝子制御の進化、さらにそのアウトプットとしての初期発生パターンの多様化があったことが示されている。クモの発生や、昆虫との比較を示す適切なスキーム、確実なデータに裏付けられ、いわゆる EvoDevo の領域にあって、重要な

知見をもたらす論文である。

#### Endocrinology

Title: Involvement of Drinking and Intestinal Sodium Absorption in Hyponatremic Effect of Atrial Natriuretic Peptide in Seawater Eels

Authors: Takehiro Tsukada, J. Clifford Rankin and Yoshio Takei

Zoological Science 22 (1) : 77-85

推薦理由: 心房性ナトリウム利尿ペプチド (ANP) は、体内のナトリウムを減少させ海水適応を促進するホルモンである。本論文では、好塩性硬骨魚であるウナギを用いて、ANP が飲水を抑制するとともに小腸からのナトリウム吸収を抑制することにより血清中のナトリウム濃度を下げ海水適応を促進することを証明した。最近には珍しく、巧みな手術により覚醒状態の動物におけるナトリウムの動態を測定して定量的解析を行ったところが特に評価に値する。

江上基金

東京大学大学院理学系研究科 柴 小菊 / 広島大学  
大学院理学研究科 吉永雅史

安増基金

富山大学大学院 若林香織 / 岡山大学大学院 高橋  
英也

#### 6. 研究及び調査

- 1) 動物学資料保存に関する調査 (資料保存委員会)  
データベースの作成
  - 2) 将来の動物学の在り方に関する調査 (動物学推進  
将来計画委員会)
  - 3) ガイアリスト21計画の推進 (ガイアリスト委員会)
  - 4) 実験等物取り扱いに関する指針の検討
7. SPARC/JAPAN 事業への参画

#### 平成18年度決算報告について

掲載されています「会計書類」をご参照ください。収入面では、通常会費収入が260万円近い減収になっております。これは、「会費滞納者の増加」によるもので、昨年度会費をお納めではない方は、速やかな会費納入をお願いする次第です。雑収入には、昨年同様、国際学術情報基盤整備事業からの補助金として、電子投稿査読システム運用のために240万円の補助が入っております。また、印刷出版費補助金、DB 科研費は、昨年は採択されましたが、今年からは、会員の多くの皆様のご承知の通り、JSPS の方針変更が行われます。Zoological

収 支 計 算 書  
平成18年1月1日から平成18年12月31日まで

(単位:円)

| 科 目              | 予算額            | 決算額            | 差異              | 備考 |
|------------------|----------------|----------------|-----------------|----|
| I 収入の部           |                |                |                 |    |
| 1 基本財産運用収入       | ( 10,000 )     | ( 3,684 )      | ( 6,316 )       |    |
| 2 入金収入           | ( 30,000 )     | ( 34,000 )     | ( -4,000 )      |    |
| 3 会費収入           | ( 22,020,000 ) | ( 19,262,184 ) | ( 2,757,816 )   |    |
| 通常会員会費収入         | 21,000,000     | 18,300,184     | 2,699,816       |    |
| 団体会員会費収入         | 1,000,000      | 942,000        | 58,000          |    |
| 賛助会員会費収入         | 20,000         | 20,000         | 0               |    |
| 4 事業収入           | ( 17,700,000 ) | ( 24,139,906 ) | ( -6,439,906 )  |    |
| 学術誌発行事業収入        | 9,200,000      | 9,164,718      | 35,282          |    |
| 学術誌予約購読料収入       | 2,000,000      | 2,431,475      | -431,475        |    |
| 学術誌掲載料収入         | 700,000        | 910,000        | -210,000        |    |
| 広告料等収入           | 6,500,000      | 5,823,243      | 676,757         |    |
| 学術集会参加費等収入       | 8,500,000      | 14,975,188     | -6,475,188      |    |
| 5 補助金等収入         | ( 12,000,000 ) | ( 23,250,000 ) | ( -11,250,000 ) |    |
| 日本学術振興会学術誌刊行補助金  | 12,000,000     | 12,300,000     | -300,000        |    |
| 文部科学省科学研究費公開促進費B | 0              | 2,250,000      | -2,250,000      |    |
| 日本学術振興会データベース補助金 | 0              | 8,700,000      | -8,700,000      |    |
| 6 雑収入            | ( 200,000 )    | ( 3,675,887 )  | ( -3,475,887 )  |    |
| 利子収入             | 0              | 7,488          | -7,488          |    |
| 雑収入              | 200,000        | 3,668,399      | -3,468,399      |    |
| 7 寄付金収入          | ( 0 )          | ( 1,486,485 )  | ( -1,486,485 )  |    |
| 8 特定目的資産取崩収入     | ( 1,700,000 )  | ( 2,379,727 )  | ( -679,727 )    |    |
| OM賞基金取崩収入        | 1,000,000      | 1,000,000      | 0               |    |
| 安増基金取崩収入         | 500,000        | 443,250        | 56,750          |    |
| 江上基金取崩収入         | 200,000        | 200,000        | 0               |    |
| 川口基金取崩収入         | 0              | 736,477        | -736,477        |    |
| 当期収入合計(A)        | 53,660,000     | 74,231,873     | -20,571,873     |    |
| 前期繰越収支差額         | 0              | 8,500,412      | -8,500,412      |    |
| 収入合計(B)          | 53,660,000     | 82,732,285     | -29,072,285     |    |

| 科 目             | 予算額            | 決算額            | 差異              | 備考 |
|-----------------|----------------|----------------|-----------------|----|
| II 支出の部         |                |                |                 |    |
| 1 事業費           | ( 38,820,000 ) | ( 58,821,243 ) | ( -20,001,243 ) |    |
| 学術集会の開催         |                |                |                 |    |
| 大会の開催           | 8,500,000      | 15,491,640     | -6,991,640      |    |
| 学会誌等の刊行         |                |                |                 |    |
| 英文学術誌の刊行        |                |                |                 |    |
| 印刷出版費           | 18,000,000     | 16,692,060     | 1,307,940       |    |
| 通信運搬費           | 2,400,000      | 2,374,068      | 25,932          |    |
| 編集費             | 4,000,000      | 4,884,705      | -884,705        |    |
| 邦文情報誌の刊行        |                |                |                 |    |
| 印刷出版費           | 1,800,000      | 1,838,950      | -38,950         |    |
| 通信運搬費           | 600,000        | 663,992        | -63,992         |    |
| 謝金              | 400,000        | 359,760        | 40,240          |    |
| 研究の奨励及び研究業績の表彰  |                |                |                 |    |
| 動物学会賞           | 200,000        | 300,000        | -100,000        |    |
| 江上学術奨励          | 200,000        | 200,000        | 0               |    |
| 安増基金奨励金         | 500,000        | 443,250        | 56,750          |    |
| 日本動物学会OM賞       | 1,000,000      | 1,000,000      | 0               |    |
| 藤井賞             | 300,000        | 0              | 300,000         |    |
| その他の事業費         |                |                |                 |    |
| 関係学術団体との連絡・協力   | 20,000         | 50,000         | -30,000         |    |
| 支部活動補助費         | 100,000        | 50,000         | 50,000          |    |
| 委員会活動費          |                |                |                 |    |
| 動物提供プロジェクト委員会   | 50,000         | 0              | 50,000          |    |
| 動物学推進将来計画委員会    | 200,000        | 103,060        | 96,940          |    |
| ガイアリスト21委員会     | 100,000        | 31,960         | 68,040          |    |
| 広報委員会           | 300,000        | 12,313         | 287,687         |    |
| 動物学資料保存委員会      | 150,000        | 0              | 150,000         |    |
| 男女共同参画委員会       | 0              | 77,794         | -77,794         |    |
| 教育活動            | 0              | 0              | 0               |    |
| 公開シンポジウム開催費     | 0              | 2,249,924      | -2,249,924      |    |
| データベース作成費       | 0              | 11,997,767     | -11,997,767     |    |
| 2 管理費           | ( 14,540,000 ) | ( 21,515,783 ) | ( -6,975,783 )  |    |
| 給料手当            | 6,000,000      | 8,768,368      | -2,768,368      |    |
| 法定福利費           | 740,000        | 1,431,097      | -691,097        |    |
| 会議費             | 100,000        | 77,306         | 22,694          |    |
| 旅費交通費           | 2,300,000      | 2,753,400      | -453,400        |    |
| 通信運搬費           | 1,500,000      | 1,212,031      | 287,969         |    |
| 消耗品費            | 500,000        | 497,014        | 2,986           |    |
| 製本費             | 100,000        | 1,942          | 98,058          |    |
| 光熱水料費           | 200,000        | 189,002        | 10,998          |    |
| 謝金              | 1,000,000      | 1,532,980      | -532,980        |    |
| 賃借料             | 1,600,000      | 1,879,260      | -279,260        |    |
| 租税公課            | 0              | 190,000        | -190,000        |    |
| 雑費              | 500,000        | 2,983,383      | -2,483,383      |    |
| 3 備品購入費         | ( 200,000 )    | ( 0 )          | ( 200,000 )     |    |
| 4 安増基金資産繰入支出    | ( 0 )          | ( 22 )         | ( -22 )         |    |
| 5 江上基金資産繰入支出    | ( 0 )          | ( 529 )        | ( -529 )        |    |
| 6 OM賞基金資産繰入支出   | ( 0 )          | ( 1,000,233 )  | ( -1,000,233 )  |    |
| 7 川口基金資産繰入支出    | ( 0 )          | ( 991 )        | ( -991 )        |    |
| 8 雑支出           | ( 0 )          | ( 540,500 )    | ( -540,500 )    |    |
| 9 予備費           | ( 100,000 )    | ( 0 )          | ( 100,000 )     |    |
| 当期支出合計(C)       | 53,660,000     | 81,879,301     | -28,219,301     |    |
| 当期収支差額(A)-(C)   | 0              | -7,647,428     | 7,647,428       |    |
| 次期繰越収支差額(B)-(C) | 0              | 852,984        | -852,984        |    |

(注) 1. 差異欄の(－)表示は、収入・支出ともに予算超過額を表し、黒字は予算残高を意味している。

( Z - 24 )

**財 産 目 録**  
平成18年12月31日現在

(単位:円)

| 科 目                 | 金 額        |            |
|---------------------|------------|------------|
| I 資産の部              |            |            |
| 1 流動資産              |            |            |
| 現金預金                |            |            |
| 現金：手許有高             | 177,973    |            |
| 郵便振替貯金：本郷郵便局        | 3,581,604  |            |
| 普通預金：みずほ銀行本郷支店      | 779,647    |            |
| 三菱東京UFJ銀行春日町支店      | 6,080,380  |            |
| データベース補助金口座         | 1,142,702  |            |
| みずほ科研費口座            | 3,027,220  |            |
| りそなニュース口座           | 209,948    |            |
| 未収金：個人別刷代           | 1,493,500  |            |
| 流動資産合計              |            | 16,492,974 |
| 2 固定資産              |            |            |
| 基本財産                |            |            |
| 貸付信託：中央三井信託銀行上野支店   | 10,000,000 |            |
| 定期預金：三菱UFJ信託銀行本店営業部 | 10,000,000 |            |
| 基本財産合計              |            | 20,000,000 |
| 特定目的資産              |            |            |
| 安増基金資産：本郷郵便局        | 523,222    |            |
| 江上基金資産：みずほ銀行        | 5,315,569  |            |
| OM賞基金資産：みずほ銀行       | 2,000,570  |            |
| 川口基金資産：みずほ銀行        | 9,264,514  |            |
| 特定目的資産合計            |            | 17,103,875 |
| その他の固定資産            |            |            |
| 備品：図書一式             | 1,000,000  |            |
| ：パソコン5セット           | 158,841    |            |
| ：ファクシミリ             | 22,208     |            |
| 電話加入権：03-3814-5461  | 72,800     |            |
| 保証金：事務室             | 800,000    |            |
| その他の固定資産合計          |            | 2,053,849  |
| 固定資産合計              |            | 39,157,724 |
| II 負債の部             |            |            |
| 1 流動負債              |            |            |
| 未払金：未払法人税等          | 70,000     |            |
| 未払消費税等              | 197,500    |            |
| その他                 | 1,781,113  |            |
| 前受会費                | 12,214,500 |            |
| 仮受金                 | 19,000     |            |
| 預り金：源泉所得税           | 135,677    |            |
|                     | 13,600     |            |
|                     | 145,950    |            |
|                     | 79,200     |            |
|                     | 75,200     |            |
|                     | 401,900    |            |
|                     | 138,400    |            |
|                     | 147,200    |            |
|                     | 127,200    |            |
|                     | 92,000     |            |
|                     | 0          |            |
|                     | 1,550      |            |
| 流動負債合計              |            | 15,639,990 |
| 2 固定負債              |            |            |
| 固定負債合計              |            | 0          |
| 負債合計                |            | 15,639,990 |
| 正味財産                |            | 40,010,708 |

**貸借対照表**  
平成18年12月31日現在

(単位:円)

| 科 目           | 金 額        |                |
|---------------|------------|----------------|
| I 資産の部        |            |                |
| 1 流動資産        |            |                |
| 現金預金          | 14,999,474 |                |
| 未収金           | 1,493,500  |                |
| 流動資産合計        |            | 16,492,974     |
| 2 固定資産        |            |                |
| 基本財産          |            |                |
| 貸付信託          | 10,000,000 |                |
| 定期預金          | 10,000,000 |                |
| 基本財産合計        |            | 20,000,000     |
| 特定目的資産        |            |                |
| 安増基金資産        | 523,222    |                |
| 江上基金資産        | 5,315,569  |                |
| OM賞基金資産       | 2,000,570  |                |
| 川口基金資産        | 9,264,514  |                |
| 特定目的資産合計      |            | 17,103,875     |
| その他の固定資産      |            |                |
| 備品            | 1,181,049  |                |
| 電話加入権         | 72,800     |                |
| 保証金           | 800,000    |                |
| その他の固定資産合計    |            | 2,053,849      |
| 固定資産合計        |            | 39,157,724     |
| II 負債の部       |            |                |
| 1 流動負債        |            |                |
| 未払金           | 2,048,613  |                |
| 前受会費          | 12,214,500 |                |
| 預り金           | 1,357,877  |                |
| 仮受金           | 19,000     |                |
| 流動負債合計        |            | 15,639,990     |
| 2 固定負債        |            |                |
| 固定負債合計        |            | 0              |
| 負債合計          |            | 15,639,990     |
| III 正味財産の部    |            |                |
| 正味財産          |            | 40,010,708     |
| (うち前期繰越正味財産額) |            | ( 49,129,971 ) |
| (うち当期正味財産増加額) |            | ( -9,119,263 ) |
| 負債及び正味財産合計    |            | 55,650,698     |

**正味財産増減計算書**

平成18年1月1日から平成18年12月31日まで

(単位:円)

| 科 目        | 金 額        |            |
|------------|------------|------------|
| I 増加の部     |            |            |
| 1 資産増加額    |            |            |
| 当期収支差額     | -7,647,428 |            |
| 安増基金資産増加額  | 22         |            |
| 江上基金資産増加額  | 529        |            |
| OM賞基金資産増加額 | 1,000,233  |            |
| 川口基金資産増加額  | 991        |            |
| 2 負債減少額    | 0          |            |
| 増加額合計      |            | -6,645,653 |
| II 減少の部    |            |            |
| 1 資産減少額    |            |            |
| 備品減価償却額    | 93,883     |            |
| 安増基金資産取崩額  | 443,250    |            |
| 江上基金資産取崩額  | 200,000    |            |
| OM賞基金資産取崩額 | 1,000,000  |            |
| 川口基金資産取崩額  | 736,477    |            |
| 減少額合計      |            | 2,473,610  |
| 当期正味財産増加額  |            | -9,119,263 |
| 前期繰越正味財産額  |            | 49,129,971 |
| 期末正味財産合計額  |            | 40,010,708 |

Science の安定した発行のためにも、学会運営のためにも、様々な角度から、今後の方針をする必要があります。支出をご覧ください。給与手当が予算を超過しておりますが、これには先に述べました補助金240万円が給与として支払われており、240万円を差し引きますと、630万

円ほどで、ほぼ予算通りということになります。

また雑費に関しましてですが、昨年、HP 刷新、また業者への HP 管理の委託に伴い、130万円ほどの出費となっております。本部では現在、HP に関する支出に關し、新しい勘定項目を設けるため、その検討に入ってい

ます。なお、2月5日(月)午前9時半より、星元紀監事、浅島誠監事による監査が行われました。学会事業は適正であり、会計処理は公正に行われたとして承認を頂きました。

社団法人 日本動物学会  
会計幹事 稲葉一男

## 社団法人 日本動物学会へ入会される方々へ

社団法人 日本動物学会事務局

例年、(社)日本動物学会大会での発表に合わせて、学会へ入会される方々が春先から7月までかなりの数に上ります。本会では、その後1年で退会されるという希望も受付けておりますが、退会される場合の手続きを、ここであらためてお知らせいたします。

本会の定款では以下のような規程となっています。

### (退会)

第11条 会員が退会しようとするときは、理由を付して退会届を会長に提出しなければならない。

2 退会しようとする者は、退会届を提出する年度までの会費を完納しなければならない。

近年、webからの入会増加に伴い、退会もwebで受付けておりましたが、「会員番号」だけで退会通知を送信される方など、事務局で退会の管理を適正に行うことが難しい状況となっています。そのため、今年度からは、退会に際しては定款第11条の1に従い、理由書を添付することを義務とします。同時に、定款第11条の2に従って、本会は1月-12月が会計年度となっておりますため、当該年での退会時には、必ず「会費」をお支払い頂くこととなりますことをご承知ください。Webでの入会受付は従来どおりです。

多くの場合、問題はございませんが、web受付の増加に伴い、あらためて定款原則に則り、名簿管理を行うことをお伝えいたします。

## 大会だより

### 社団法人日本動物学会 第78回大会(弘前)第2回案内

#### はじめに

第78回大会は、東北支部の担当で弘前市の弘前大学文京町キャンパスで開催されます。大会期間は3日間、一般発表は、口頭発表とポスター発表の両方を行います。

弘前は、青森県で一番高い岩木山、世界遺産のブナ原生林をもつ白神山地、美しい渓谷や滝のある八甲田連峰などの山で三方を囲まれ、自然豊かな環境のもとで、ねぶたまつり、津軽弁、津軽塗、津軽三味線などの独自の文化を育んできた街です。

宿泊施設も少なく、交通の便も必ずしも良くないところですので、どうぞお早めに宿泊等のご予約をお願いします。本大会は、学生会員の方々のより多くの参加を願い、わずかではありますが、参加費・懇親会費を値下げしました(学生会員 参加費4千円、懇親会費3千円)。学生会員の方々はもちろん、会員皆様多数のご参加を心からお待ちしております。

第78回大会準備委員会委員長 石黒誠一

#### 1. 会期

2007年9月20日(木)~22日(土)

#### 2. 会場

弘前大学文京町キャンパス

〒036-8560 青森県弘前市文京町1番地

(詳しくは弘前大学ホームページ<http://www.hirosaki-u.ac.jp/>をご覧ください)

一部のシンポジウム、総会および受賞者講演は弘前文化センター・ホール(〒036-8356 青森県弘前市下白銀19-4)で行います。

#### 3. 交通

JR 奥羽本線弘前駅からバスで約10分。「狼森(おいのもり)行」「自衛隊行」「学園町行」「小栗山行」に乗車、「弘前大学前」下車。駅からタクシーで約8分。

#### 4. 大会タイムスケジュール

一般講演以外の現段階でのスケジュールは以下のとおりです。最終的なスケジュールは多少変更される場合があることをご承知おきください。

●関連集会 9月20日(木)の夕刻

- シンポジウム 9月21日(金)の午前,  
22日(土)の午前
- 総会および受賞者講演  
9月21日(金)の午後  
(弘前文化センター・ホール)
- 懇親会 9月21日(金)の夕刻  
(ホテルニューキャッスル)
- 動物学ひろば 9月23日(日)の午前,午後

## 5. シンポジウム

2日目の午前と3日目の午前にシンポジウムを予定しています。このシンポジウムは公募によるもので、応募を受付中です。シンポジウムの企画のご希望がありましたら、3月30日(金)までに企画書(シンポジウム名、シンポジウムの概要、講演者の名前と所属、責任者とその連絡先、参加予想人数)を準備委員会事務局 石田幸子(sachikoi@cc.hirosaki-u.ac.jp)までメールでお送りください。なお、使用できる会場・時間等に制限があり、ご希望に添えない場合もあることをあらかじめご了承ください。

## 6. 一般発表

本大会での一般発表は、口頭発表(400題程度)とポスター発表(200題程度)の両方を予定しています。演題発表要項は予稿集と大会ホームページ(<http://zsj2007.umin.jp/>)に掲載します。

口頭発表は1日目の午前・午後および3日目の午後に、また、ポスター発表の討論時間を1日目の午後と3日目の午後に予定しております。

口頭発表かポスター発表かについては、希望を演題申込み時に選択してください。できるだけご希望に添うように致しますが、会場の都合で変更していただく場合がありますのでその点ご了承ください。最終決定は、準備委員会にご一任ください。

口頭発表は、コンピューター操作の液晶プロジェクターを使用し、Windows XP でパワーポイントを使用する予定です。パワーポイントのデータは USB フラッシュメモリーまたは CD-ROM でお持ちください。作成データの総量は、30MB までとさせていただきます。

発表に関するお問い合わせは、準備委員会事務局 石黒誠一(is1019@cc.hirosaki-u.ac.jp)にお願いいたします。

主たる発表者としての発表は、1人1演題に限ります。Equal contribution などの特別な事情の場合は、複数になってもかまいません。発表は日本動物学会の会員に限

られますので、非会員の方は必ず日本動物学会へ入会し、会費納入手続きをすませてから発表申込みをしてください(<http://www.soc.nii.ac.jp/zsj/zool/>)。

学会員であっても、平成19年度までの会費を未納の方は発表できませんので、会費を納入してから発表申込みをしてください。

## 7. 大会参加および演題登録の方法

インターネットでの申込みを原則としてお願いいたします。インターネットをご利用になれない場合のみ、大会準備委員会事務局に郵送でお申し込みください。

発表申込み期間は、2007年5月9日(水)から6月13日(水)正午までです。

発表の有無にかかわらず、大会ホームページ(<http://zsj2007.umin.jp/>)にアクセスし、まず参加登録を行ってください。大会ホームページは動物学会ホームページ(<http://www.soc.nii.ac.jp/zsj/zool/>)からもリンクしています。登録が完了すると5桁の参加登録番号が発行されます。この番号は参加費のお支払いの際に必要となりますので、必ず印刷して保管してください。

一般発表がある場合は、参加登録を行った後、「演題登録」のページからお申し込みください。発表申込みには日本動物学会会員番号の入力が必要になります。入力がない場合は申込みを完了することができませんので、必ず動物学会ホームページ上の会員情報ページにて確認してください。内容の修正は6月20日(水)正午まではインターネット上で可能です。

大会参加のみの方は、9月14日(金)まで参加登録が可能です。6月13日(水)正午以降の申込みでは予稿集の参加者名簿に記載されない可能性がありますのでご注意ください。

## 8. 参加費と懇親会費

6月13日(消印有効)までに払込みの場合

参加費：一般会員 7,000円、学生会員4,000円、  
非会員 9,000円

懇親会費：一般会員 5,000円、学生会員3,000円、  
非会員 7,000円

6月14日以降

参加費：一般会員 8,000円、学生会員5,000円、  
非会員10,000円

懇親会費：一般会員 7,000円、学生会員5,000円、  
非会員 9,000円

大会参加費・懇親会費は、本号に綴じ込みの第78回大会用郵便振替取扱票を使用してお支払いください。払い



日本動物学会第78回大会 ご参加の皆様へ

## 【宿泊・交通のお申し込みについて】

拝啓 学会員の皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平成19年9月20日(木)から22日(日)の3日間、弘前大学を主会場に「日本動物学会第78回大会」が開催されますことを心より歓迎いたします。

この度、ご参加の皆様の宿泊・交通のお手配につきまして、私ども弘前大学生生活協同組合が窓口となり、提携交通機関・旅行代理店・宿泊施設と協力しながらご便宜を図らせていただくことになりました。大会期間中はビッグイベント「スポレクあおり 2007」と一部日程が重なり大変な混雑が予想されますので、生協は相当数の宿泊ホテルの確保と、割安な航空券・JR宿泊パックといった学会特別商品造成など、皆様のお申し込みをお受けする準備を完了させております。

準備済みのホテル・料金・交通機関等は下記アドレスのホームページに掲載し、コンテンツごとで詳細にご案内させていただきますので、お申し込みの際にはまずそちらをご確認下さい。なお、HPは平成19年3月1日(木)のアップ予定、お申込方法はHPからの専用メールと申込書ダウンロードによるFAX等を予定しております。

本誌面にて詳細にホテルなどのご案内ができない点は誠に恐縮と存じますが、事情をお察しのうえ交通宿泊のご予約につきましては、安心してお任せいただける当生協のご利用をぜひお願い申し上げます

敬具

弘前大学生生活協同組合(理事長) 荒川 修

### 1. 弘前大学生協 HP アドレスと担当部署

※3月1日(木)より閲覧可能となります

HPアドレス:<http://www.hirosaki.u-coop.or.jp/gakkai/animal>

(弘前大学生協で検索いただき、TOPページの「動物学会」からでも入ることができます)

担当部署:【青森県知事登録旅行業 第3-75号】

弘前大学生生活協同組合

プレイガイド 学会担当係(統括責任者 長内哲夫)

電話 0172-37-6480 FAX0172-35-7816

e-mail: t-osanai@coop.hirosaki-u.ac.jp

### 2. ご案内コンテンツのご紹介

#### ①宿泊プランのご案内

- (1)手配予定のホテルリストと料金
- (2)取り消し、変更に係わるご案内

#### ②弘前までの交通のご案内

- (1)各地から弘前までの交通手段のご案内
- (2)青森空港及び宿泊施設の位置とアクセスのご案内
- (3)弘前市内、会場、ホテル便利地図

#### ③交通及び宿泊パックのご案内

- (1)空路(団体航空券)及び変更等に係わるご案内
- (2)JR宿泊パック及び変更等に係わるご案内

#### ④お申込み方法、締切日、お支払い方法等のご案内、その他情報など

## 11. 公開シンポジウムと動物学ひろば

9月22日(土)は高校生のポスター発表に引き続き、白神山地や津軽の動物たちを対象にした公開シンポジウムを開催します。多数のご参加をお待ちしております。

9月23日(日)に、動物学ひろば「動物たちがやってきた」を弘前大学文京キャンパスを会場に開催予定です。積極的な応募をお願いいたします。内容については準備委員会事務局 渡邊誠二 (sage@cc.hirosaki-u.ac.jp)までお問い合わせください。詳細については逐次大会ホームページに掲載します。

## 12. 託児室

大会期間中に託児室を開設します。7月中旬に電子メールによる利用アンケート調査を実施します。アンケートの結果をもとに託児室の規模と利用料金を決定したいと考えておりますので、利用予定者はアンケートにご協力をお願いします。

## 13. 懇親会

大会2日目の夕刻にホテルニューキャッスルにて懇親会を行います。総会会場(弘前文化センター)から歩いて5分程です。皆様のご参加をお待ちしております。

## 14. 宿泊・交通

宿泊等の予約は弘前大学生協ブレイガイドが斡旋します。本号に掲載の案内をご覧ください。大会ホームページからも宿泊案内にリンクしていますのでご利用ください。

## 15. その他

大会には参加せず、予稿集だけを入手したい方は、第78回大会用の郵便振替取扱票の通信欄に「予稿集のみ」と明記して、所定の金額を払い込みください。6月13日(消印有効)までに払い込みの場合は4,000円、6月14日以降の払い込みの場合は5,000円です。

大会開催に関する最新の情報は、大会ホームページで順次お知らせしますのでご覧ください。

## 16. 問合わせ先

本大会に関するご意見やご希望がありましたら、下記にお寄せください。

連絡先 第78回大会準備委員会委員長 石黒誠一  
〒036-8561 青森県弘前市文京町3  
弘前大学農学生命科学部応用生命工学科  
E-mail: is1019@cc.hirosaki-u.ac.jp  
Tel: 0172-39-3780

## 第4回 男女共同参画学協会連絡会シンポジウム

“育て、女性研究者!!

理工系女性研究者支援の新しい波”

分科会 B

「新たな活躍の場をもとめて -

フロンティアをめざす研究者」報告

動物学会男女共同参画委員

箕浦高子(東京大学)

2006年10月6日に、東京大学山上会館において表記のシンポジウムが開催されました。動物学会は分科会 B の企画を担当し、中辻孝子男女共同参画委員長と委員の鷺谷節子、箕浦高子の3名がオーガナイザーを務めました。全体会やポスターセッション等、シンポジウムの全体報告書は、後日、男女共同参画学協会連絡会の HP (<http://annex.jsap.or.jp/renrakukai/index.html>) に掲載される予定ですが、その中から分科会 B について、以下に転載・報告させていただきます。なお、本分科会でご講演をいただきました、橋本裕子さん(日本科学未来館)の対談記事が BTJ ジャーナル(バイオ研究者のキャリア/スキルアップマガジン, <http://biotech.nikkeibp.co.jp/btjnn/>) 2006年10月号に掲載されています。医学系大学院博士課程在学中の女子学生が、橋本さんのこれまでのキャリアチェンジの経験や育児と仕事との両立などについてインタビューする、たいへん興味深い記事です。

分科会 B は、テーマを「新たな活躍の場をもとめて - フロンティアをめざす研究者」とし、日本動物学会が担当した。大学院重点化やポストクワン人計画で研究者人口が増える一方、アカデミアへの就職事情は年々厳しく、若い世代の将来への閉塞感は否めない。異分野での可能性を見出すべく、本分科会では、生物学のバックグラウンドを持ちながら現在はノンアカデミアで活躍されている3人の方々に講演をお願いした。村瀬祥子氏(理学博士・現(株)バイオマスター取締役 CSO)は、ポストク2年の後ベンチャーキャピタル(VC)に転向した。バイオ系ベンチャー企業(BV)を育成支援する VC では、専門的知識を生かした技術的助言はもちろん、「目利き」の能力が問われる。研究者の視点からユーザーの視点へ、巧みな切替えが必要だったという。現在は多くの BV があり、内容も企業としての成熟度も様々だ。安定した企業で研究者になるか、創成期にクリエイターとして参画

するか、自分の適性に合わせた選択が可能らしい。アカデミア以外の道に進むと「ドロップアウト」と見られるのでは？という問いには、我々の BV に対する「誤解」を指摘された。多くの BV ではシーズを育てるため、ある程度広い範囲で研究を展開しており、そのための投資はむしろアカデミアよりも潤沢だ。BV での研究は我々の想像以上に自由度が高らしい。会場からは、そのような魅力的な研究環境ならば、インターンシップや就職説明会等で積極的に PR してほしいという声が出た。榎木英介氏（博士（医学））は、大学病院医師として勤務する傍ら、学生時代に設立した NPO 法人サイエンスコミュニケーションの代表理事として、研究者をめぐる様々な問題への提言や情報提供などの活動をされている。学協会連絡会でも政策提言は主要活動の一つであり、その方策について質問が挙がった。榎木氏は「政府の関心は高い。勉強会等で常にアンテナを張り、また提言だけで終わらせない努力も重要」とコメントされた。橋本裕子氏（理学博士・現 日本科学未来館 科学技術スペシャリスト）は、9 年間のポスドクの後、40 才でサイエンスライターに転向、5 年後に現職に移られた。未来館には企画やインタープリターなどの任期職がある。生物系の出身者、女性が多く、その後は研究所広報や博物館等に転職するらしい。異なる分野の 3 人の話を伺ううちに「コミュニケーション」と「育成」という、共通のキーワードが見えてきた。また、「相撲部屋方式」というアイデアが共感を呼んだ。力士は修行で相撲とちゃんこ料理を同時に習う。ちゃんこ屋は引退後の生活の糧だけでなく、その地域の有望な子供を見つけ中央に送る「次世代育成基地」としても機能する訳だ。未来館などが先駆

けて、企業や地方とも連携し、さらには育成の進む科学技術インタープリターも活用して「科学ちゃんこ」を実現すれば、同時に様々な問題への解決の糸口にもなるかもしれない。

---

## 支部だより

---

2006 年度・日本動物学会中国四国支部・愛媛県例会  
中国四国支部では下記のとおり、愛媛県例会を開催いたしました。

日時：2006 年 12 月 16 日（土） 13：00～15：00

場所：松山市文京町 2-5 愛媛大学理学部 204 講義室

### プログラム

1. 空気流刺激に対するコオロギの反応率の回復と巨大介在神経の反応特性の変化  
黒石博之・田桑弘之・加納正道（愛媛大・院・理工・生物）
2. 片側尾葉切除後のコオロギの行動補償におよぼす自己刺激空気流の影響  
太田真司・田桑弘之・加納正道（愛媛大・院・理工・生物）
3. ショウジョウバエの寄生蜂の宿主域に関する研究  
井手尾進介・和多田正義（愛媛大・院・理工・生物）、三井偉由・木村正人（北海道大・院・環境科学）
4. ウニ胚における背腹のパターニング  
佐藤周秀・小南哲也（愛媛大・院・理工・生物）

## (社)日本動物学会関東支部ニュース

(<http://wwwsoc.nii.ac.jp/zsj/sibu/kantou/kantou.html>)

2007年 3月 №108

### 2006年度 第59回関東支部大会について

第59回大会は、平成19年3月24日(土)に、首都大学東京(東京都立大学)南大沢キャンパスで以下のように開催されます。詳細は、第59回大会ホームページに随時掲載致します。

<http://evolgen.biol.metro-u.ac.jp/zoolkantou59/>

今回は、一般発表はポスターのみとしますが、すべての発表者に2分間でご自分の発表の要旨を話して頂く時間を設けます。このときには、お一人2枚までのパワーポイントを使うことができます。連名発表者のうち、どなたかお一人が当学会会員であれば発表できます。

ポスター発表には高校生・中学生の発表のコーナーも設けます。必ずしも動物学に限定せず、生物学一般の意欲的な発表を期待しています。なお高校生・中学生は2分間の要旨発表はありません。

シンポジウムは「海は生命のふるさと(仮題)」として、海産動物の研究を進めている数名の方に興味深いお話しをして頂きます。このシンポジウムは公開で、一般の方も参加できます。演者は藤原義弘(海洋研究開発機構)、塚本勝巳(東京大学)、西駕秀俊(首都大学東京)諸氏の予定です。

前回支部大会で開催されて好評だった「動物学ひろば」を、首都大学東京大学院「魅力ある大学院教育イニシアティブプログラム」との共催で今回も行います。実験研究の対象とされている動物を、研究概要とともに紹介して頂くものです。多くの大学からのご参加をお願い致します。今回はさらに枠を広げて、横浜八景島シーパラダイス・アクアミュージアム、海洋研究開発機構のご協力を得て、海に生息する種々の動物、海洋調査船「しんかい6500」の模型や深海の動物標本、また、八王子周辺の

生態研究、伊豆諸島・小笠原研究の発表も行います。これらは一般の方にも公開されます。(大会ホームページから参照下さい)

### プログラム(予定):

|               |              |
|---------------|--------------|
| 9:30          | 受付開始, ポスター掲出 |
| 10:00 - 12:00 | ポスター発表者の要旨発表 |
| 12:00 - 13:00 | 総会, 昼食       |
| 12:00 - 16:30 | 動物学ひろば       |
| 14:30 - 16:30 | ポスター発表       |
| 16:30 - 18:00 | 公開シンポジウム     |
| 18:00 -       | 懇親会          |

会場: 首都大学東京(東京都立大学)南大沢キャンパス  
12号館(東京都八王子市南大沢1-1)  
京王線相模原線南大沢駅下車徒歩15分

発表申込: 大会ホームページをご覧ください。

参加費: 一般1000円, 大学生・大学院生500円,  
高校生以下無料

懇親会: シンポジウム終了後, 8号館イニシアティブ交流スペースで開催します。

一般1500円, 学生無料の予定。当日も参加受付します。

### 大会準備委員会

〒192-0397 東京都八王子市南大沢1-1

首都大学東京理工学系生命科学

日本動物学会第59回大会準備委員会

八杉貞雄(電話: 042-677-2572)

E-mail: yasugi-sadao@c.metro-u.ac.jp

黒川 信(電話: 042-677-2578)

E-mail: kurokawa-makoto@c.metro-u.ac.jp

## 「生物科学ニュース」の購読・ご利用のおすすめ

近年の生命科学の進歩はめざましく、新しい分野が次々と開かれ、その結果として新しい学会や雑誌が次々と設立・刊行されると共に、日々各種の会合がめまぐるしく催されております。もはや個々の学会や個人がこれらの情報を処理していける時期ではなくなってきております。

この時代に対処してゆくために「生物科学ニュース」は日本動物学会および日本植物学会の和文情報誌として、会員への情報伝達、広報はもちろん、生物学に関連した学会・国際会議・シンポジウム・講演会・研修会などの開催予定とプログラム、人事・研究助成金などの公募記事、書評、関連分野の動向などを中心に、幅広く生物科学関連ニュースをもりこみ編集・刊行されています。

「生物科学ニュース」は両学会の約5,000名の会員に配布されていますが、会員以外の個人の方あるいは機関でもご購入いただけます。この機会にぜひご購入くださいますようお願い申し上げます。ご送付先、お電話番号など明記のうえ下記あてハガキ、またはファックスなど書面でお申し込みくだされば折り返し請求書をお送り申し上げます。

## 記

「生物科学ニュース」 月刊（毎月20日発行）／B5判／毎号平均22頁

編集・発行 生物科学ニュース編集委員会（日本動物学会・日本植物学会）

年間購読料 3,100円（税込・送料無料）

購読料は原則として年間前払いでお願いしております。

ご希望の月号からご購入いただけますが、1月号から12月号までの12冊を一期間としますため、途中月号からの購読の場合は初年度のみ月割の購読料となります。以降は購読中止のご連絡をいただかない限り翌年に自動継続し1月号から12月号のサイクルで更新させていただきます。

機関購読の場合はご送付先にご担当の個人名をお入れください。

お支払いに際し特定の書類が必要な場合は作成いたしますのでご連絡ください。

見本誌ご希望の場合はお送りいたします。

すでに購読ご登録の場合はご容赦下さい。

年間購読料 3,100円（改定された場合は別途ご案内します）

〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-2 東真ビル

（社）日本動物学会（TEL 03-3814-5461 FAX 03-3814-6216）

（社）日本植物学会（TEL 03-3814-5675 FAX 03-3814-5352）

関連記事掲載を御希望の方は、「生物科学ニュース」最新号を参照の上、記事を簡潔にまとめ、下記編集局宛にお送り下さい。編集委員会が関連記事と認めた場合には無料で掲載させていただきますが、様式の統一のため記事の手直しを行なうことがあります。なお、編集委員会では記事の要約表現の改訂を独自に行なうことがあります。また学会や研究会が独自の記事を出したい時には、その都度必要なスペース（“ひろば”欄）を買い切ることができます。“ひろば”の校正は買い切られた方をお願い致します。

- 料金：1 ページ（2,000 字） 40,000 円  
1/2 ページ（1,000 字） 20,000 円  
1/4 ページ（500 字） 10,000 円

◦ 記事送付先：〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-2 東真ビル 生物科学ニュース編集局

◦ 原稿をお送り下さる場合、以下の点にご留意下さい。

1) 生物科学ニュースに原稿をお送りいただく場合は、生物科学ニュース編集局 (bsnews@bsj.or.jp) に、電子メールの本文または添付書類（テキストファイル、マイクロソフトワードまたはアップルワークス書類に限る。ファイル名に拡張子を付ける。）で、Subject に「ニュース原稿」と記入の上、お送り下さい。フロッピーディスクを郵送いただいても結構です。なお、修飾文字や特殊文字をご使用の際は、同時にプリントアウトしたものをファックス（03-3814-6216）にてお送り下さい。図表等のファイルについては、予めご相談下さい。書式等は生物科学ニュース最新号をご参照下さい。

2) 現在のところ、書評欄への投稿は受けつけておりません。

3) 掲載原稿の締切日（必着）は以下の通りです。

|        |           |               |        |           |                |
|--------|-----------|---------------|--------|-----------|----------------|
| No.425 | 2007年5月号  | 2007年3月12日（月） | No.431 | 2007年11月号 | 2007年9月10日（月）  |
| No.426 | 2007年6月号  | 2007年4月9日（月）  | No.432 | 2007年12月号 | 2007年10月15日（月） |
| No.427 | 2007年7月号  | 2007年5月14日（月） | No.433 | 2008年1月号  | 2007年11月12日（月） |
| No.428 | 2007年8月号  | 2007年6月11日（月） | No.434 | 2008年2月号  | 2007年12月3日（月）  |
| No.429 | 2007年9月号  | 2007年7月17日（火） | No.435 | 2008年3月号  | 2008年1月15日（火）  |
| No.430 | 2007年10月号 | 2007年8月13日（月） |        |           |                |

運営委員会

社団法人 日本動物学会 久保英夫・鈴木 忠・吉田 学 (<http://www.soc.nii.ac.jp/zsj/zoal/>)

社団法人 日本植物学会 永田典子・加藤美砂子・小関良宏 (<http://bsj.or.jp/>)

編集委員会

社団法人 日本植物学会 岩井宏暁・塩田 肇・鈴木光宏・水澤直樹・加藤美砂子(幹事)

社団法人 日本動物学会 阿部秀樹・佐藤 恵・立花和則・広橋教貴・鈴木 忠(幹事)

---

発行 (社)日本動物学会・(社)日本植物学会 生物科学ニュース編集委員会 〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-2  
東真ビル / FAX 03-3814-6216

印刷 昭和情報プロセス株式会社 〒108-0073 東京都港区三田5-14-3 TEL 03-3452-8451

---

購読申込: 生物科学ニュース編集委員会 / 〒113-0033 東京都文京区本郷2-27-2 東真ビル  
FAX 03-3814-6216

---